

令和6年度 第3四半期（10月～12月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 1.5 ポイント悪化、
令和5年度第3四半期からは 5.4 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲4.8（前期比▲1.5、前年同期比▲5.4）、来期見通し（1月～3月）については▲7.6（当期比▲2.8）となった。

製造業・建設業以外の業種で DI 値が前期比プラスとなった。小売業・サービス業を中心に需要が回復傾向だとの声があがる一方、採用難、原材料やエネルギー価格の高騰を懸念材料として挙げる声が依然多い。為替相場や不安定な海外情勢に加え、異常気象の業況への影響を指摘する声も聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 41.8（前期比+1.8、前年同期比+0.4）、来期に設備投資を「計画している」との回答は 35.8（当期比▲6.0）となった。

■製造業

業況 DI 値は▲9.1（前期比▲6.1、前年同期比▲14.5）、来期の見通しについては±0.0（当期比+9.1）となった。

半導体関連がゆるやかに回復している、工作機械やモバイル関連を中心に好調であるとの声があがった。一方で、印刷業や木工業では需要の減少、食品製造業では人手不足や採用難、異常気象による原材料の不足や価格高騰を問題視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は±0.0（前期比▲7.7、前年同期比+4.8）、来期の見通しについては▲13.6（当期比▲13.6）となった。

業況は横ばいとの回答が多い中、案件はあるものの、人手不足のため受注を断念することがある、施工業者の確保に苦労している等の声が聞かれた。また、公共工事が減っている、人件費等諸経費の上昇が経営を圧迫している、働き方改革の影響で生産性が落ちているとの声もあった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」、「材料単価の上昇」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

調査概要

●調査対象

- (1)対象地区：豊橋市内 329 社
- (2)回答企業数：146 社 (44.4%)

●調査期間

令和6年10月～12月

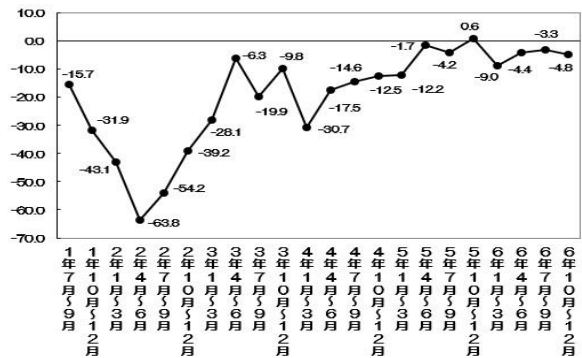
●調査方法

往復はがき、FAX、Google Form

●回答企業の内訳

製造業 66・建設業 22・卸売業 19
小売業 17・運輸業 12・サービス業 10

全業種



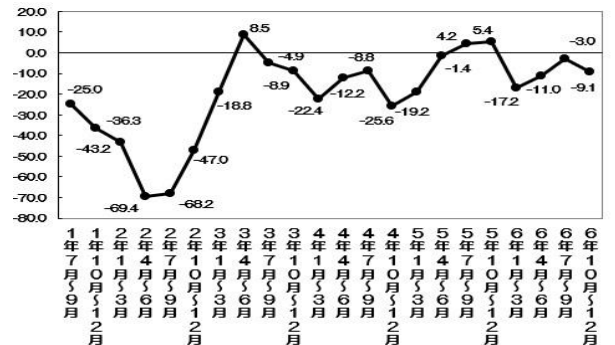
《A》前年同期（令和5年10月～12月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↓
19.9%	55.5%	24.7%	▲4.8%	

《B》来期（令和7年1月～3月）の景況見通し

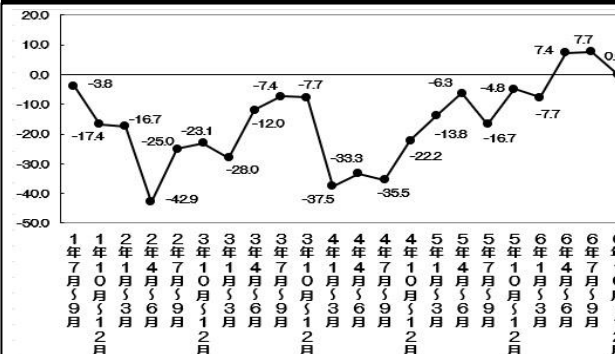
良い	同様	悪い	DI値	↓
17.2%	57.9%	24.8%	▲7.6%	

製造業



【前年同期比】	令和5年10～12月	【来期見通し】	令和7年1～3月
自社の業況	▲9.1 ↓	自社の業況	0.0 ↑

建設業



【前年同期比】	令和5年10～12月	【来期見通し】	令和7年1～3月
自社の業況	0.0 ↑	自社の業況	▲13.6 ↓

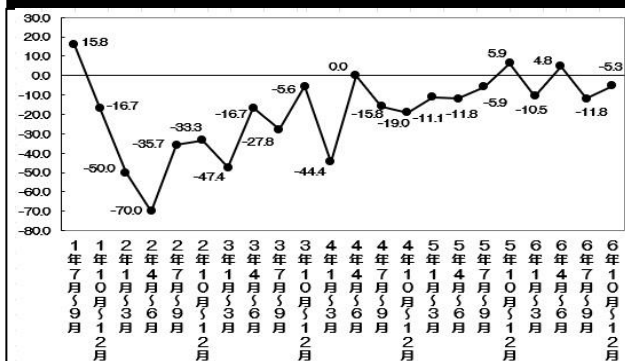
■卸売業

業況 DI 値は▲5.3（前期比+6.5、前年同期比▲11.2）、来期の見通しについては▲21.1（当期比▲15.8）となった。

全体的に、売上が増加したものの、仕入価格も上昇しており利益は増えていない、価格転嫁が十分にはできていないとの声が多かった。また、贈答品卸売業では、コロナ後のライフスタイルの変化が業況に影響しているとの指摘もあった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

卸売業



【前年同期比】 令和5年10～12月 自社の業況 ▲5.3 ↓

【来期見通し】 令和7年1～3月 自社の業況 ▲21.1 ↓

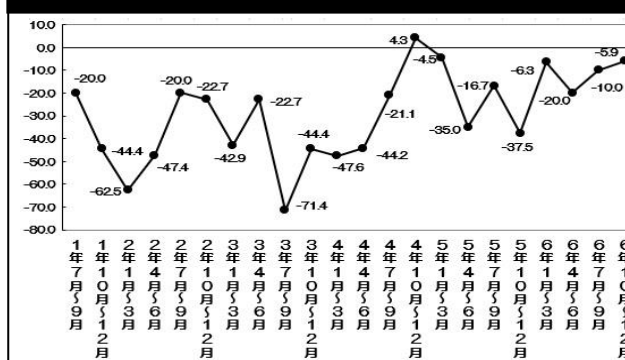
■小売業

業況 DI 値は▲5.9（前期比+4.1、前年同期比+31.6）、来期の見通しについては▲23.5（当期比▲17.6）となった。

業況は横ばいとの回答が多い中、秋口から好転に向かいつつある、年末の需要が増加しているとの明るい声が聞かれた。一方で、激変緩和補助金の縮小や、暖冬等気象・気候が業況に及ぼす影響を懸念する声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「店舗の狭隘」が主に挙げられる。

小売業



【前年同期比】 令和5年10～12月 自社の業況 ▲5.9 ↑

【来期見通し】 令和7年1～3月 自社の業況 ▲23.5 ↓

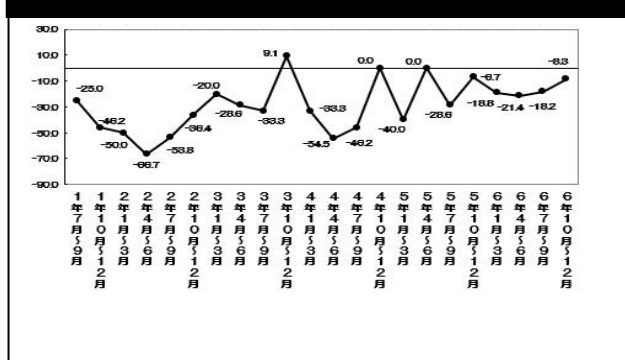
■運輸業

業況 DI 値は▲8.3（前期比+9.9、前年同期比▲1.6）、来期の見通しについては±0.0（当期比+8.3）となった。

顧客が値上げに応じてくれた等、明るい声が聞かれた一方で、運送量は増える見込みがないとの声が多い。賃上げによる人件費や激変緩和補助金の縮小による燃料費の上昇に加え、働き方改革に対応するための環境整備費用が増加したとの声もあった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

運輸業



【前年同期比】 令和5年10～12月 自社の業況 ▲8.3 ↓

【来期見通し】 令和7年1～3月 自社の業況 0.0 ↑

■サービス業

業況 DI 値は+20.0（前期比+10.9、前年同期比▲2.2）、来期の見通しについては±0.0（当期比▲20.0）となった。

自動車整備業やリース・レンタル業では、需要は堅調である、サービス単価の値上げができたとの声が聞かれた。一方で、トレーニングジム業では新規顧客数が減少している、清掃業では物価高のあおりを受けて解約が増えているとのことであった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「仕入価格の上昇」が主に挙げられる。

サービス業

